

序

—本書の目的—

本書は獣医学教育モデル・コア・カリキュラム（コア・カリ）の「寄生虫病学」の実習項目に沿った構成のテキストである。加えて、今年、国家資格として認定された動物看護師が具備すべき技術と情報を盛り込んだ書も兼ねている。

コア・カリの制定前から、国内の獣医師養成のための大学（獣医系大学）では、それぞれ特色ある寄生虫病学（あるいは、寄生虫学、医動物学など）の実習が開講され、そのテキストとして『獣医寄生虫検査マニュアル』（文永堂出版、1997年刊）が20年以上使用されてきた。

本書刊行はその後継という意味合いもあるが、各獣医系大学で実際に実施される実習内容を「最大公約数的に編集」という点で、まず、コンパクトである。これは価格に反映し、さらに、結果的に知識が厳選され、動物看護師養成課程にも適した教材となった。

ご覧の方の中には、教科書を汚したくないという方がいらっしゃるかもしれない。しかし、本書は、前述のように、必須項目を最小限に編んだものであり、各獣医系大学で活用される標本や材料とは異なるものもあろう。その際のメモを学生諸君が本書関連項目に手軽に書き込むことを想定している。これが印刷媒体の最大の特徴で、このようにしてご自身により「加工」された本書は、皆さんが獣医師・動物看護師として歩むこれからの長い人生で最良の友の一人として寄り添うことになろう。したがって、詳細かつ広範に記述された『獣医寄生虫検査マニュアル』と本書とは一線を画すものでもある。

大学は研究を基盤に教育をする機能を有する。コア・カリ内容を諄々と説く学校ではない。そして、獣医・動物看護系大学も大学である。その機能を思い起こして欲しいため、本書執筆陣は研究の最前線に立つ各獣医系大学の若き才能を中心に執筆して頂いた。その筆致は、あたかも眼前で実習が立ち上がるが如く、実に判りやすく描かれていた。

学生諸君とともにこの研究者の方々も成長される。大学は学生・教員ともに育つ場である。本書刊行の目的の一つには、このような願いも込められたが、この目的が成就されたのかどうかは諸君ご自身で確かめて欲しい。

2020年1月

浅川満彦